

「東日本大震災からの復興を担う専門人材育成支援事業」実績報告書

1. 事業の概要

(1)事業名(全角30字以内)

被災地の地域医療連携に貢献できるコメディカル人材の育成

(2)メニュー・分野

メニュー		分野
○	(1) 専修学校等における中長期的な人材育成コースの ① 開発・実証	その他
	(1) 専修学校等における短期専門人材育成コースの開 ③ 設・実証	
	(2) 専修学校等における就職支援体制の充実強化	—

「その他」分野名

医療

(4)事業実施期間

平成24年8月15日～平成25年3月15日

(5)事業の概要

被災地宮城県では、東日本大震災により崩壊した地域医療の再生・復興に向けた取り組みが進んでいる。ここでは、震災前の状態への回帰ではなく、新たに「先進的な地域医療モデル」の構築が目指されている。具体的には、地域医療連携体制の推進が目標として掲げられており、そこでキーとされているのがチーム医療の促進である。医師やコメディカルスタッフなどの医療従事者が互いに連携・補完し合うチーム治療に対しては、医療の質や安全性の向上につながるものとして大きな期待が寄せられている。

しかしながら、チーム医療に関する専門教育が充分に行われているとは言い難いのが現状であり、医療現場からはその取り組みを求める声も大きい。

そこで本事業では、コメディカルスタッフのうち、理学療法士を対象とするチーム医療の教育プログラムを開発・実施した。理学療法士を対象とするのは、高齢化率の高い被災地では、リハビリテーションや摂食嚥下などのチーム医療の場面において、理学療法士の果たす役割の重要度が高いと考えられるためである。

この取り組みを通して、これから被災地で展開される地域医療連携の促進に資する人材の育成に繋げた。

2. 文部科学省との連絡担当者

省略

3. 事業内容の説明

(1) 事業の目的(全角500字以上)

◆被災地宮城県における医療再生・復興の方向性

東日本大震災により病院・診療所が甚大な被害を受けた宮城県では、現在、医療の再生・復興に向けた取り組みが進んでいる。そこでは、震災前の状態への復帰ではなく、新しい「先進的な地域医療モデル」を構築することが目指されている。この中で目標として掲げられているのが「地域医療連携体制」であり、その推進においてキーとなるのが「チーム医療」である。チーム医療とは、多種多様な医療スタッフが目的と情報を共有して各々の業務を分担しつつ相互に連携・補完し合いながら適切な医療を提供することをいう。現在、このチーム医療には、医療の質や安全性の向上など大きな期待が寄せられている。

しかしながら、チーム医療の取り組みは始動したばかりであることから、その専門教育は十分に整備されているとは言いがたいのが実状であり、医療現場からはその取り組みが強く求められている。

◆チーム医療に貢献できるコメディカル人材の育成

上記のような現状を踏まえ、本事業では、今後被災地で進められていく地域医療連携体制のチーム医療に貢献できるコメディカル人材を育成する教育プログラムの開発及びその試行的な実施を行った。但し、チーム医療に係るコメディカル人材は多種多様であるため、そのすべてをカバーすることは難しい。そこで本事業では、高齢化の進む被災地において需要が高いと考えられる理学療法士を対象として選択した。

この取り組みによって、他の医療スタッフと連携・補完し合いながら的確な医療を提供できる理学療法士を育成し、これから被災地で展開される地域医療連携の促進に資することを目的とした。

また、先述の通り地域医療連携体制は今後全国的に拡大する取り組みであることから、本事業の活動でチーム医療に携わるコメディカル人材育成の先導的モデルを構築した。これを他県・他地域にも広く展開することで、これからの医療現場で求められる人材育成・確保につなげることを企図した。

(2) 教育プログラム・教材の開発内容等

◆対象者

理学療法士を目指す学生から理学療法士としての経験が数年程度の新人スタッフ

◆教育プログラムの開発

チーム医療を行う上で、他の医療スタッフと連携・補完し合いながら的確な医療が提供できる理学療法士の育成を支援するための教育プログラムを開発した。

学習内容は大きく二部構成とした。第一部では専門医療の知識を強化するために国家試験対策の準備学習用教材として、「解剖学」「生理学」の基礎知識の定着を図る。第二部は、今後被災地で進められていく地域医療連携体制下のチーム医療に貢献できる理学療法士を育成する教育プログラムである。

【教育プログラムの構成】

- 第一部:「国家試験対策—解剖学・生理学—」eラーニング
- 第二部:「チーム医療」ケーススタディ

□集合教育+eラーニングによる実施

教育プログラムの実施形態は、通常の集合教育とeラーニングのブレンドとした。

eラーニングをスマートフォン、タブレットの携帯端末対応のものを利用することで、「いつでも」「どこでも」学べる利便性から、すきま時間を有効に活用できた。

◆「国家試験対策—解剖学・生理学—」eラーニング

・「解剖学・生理学基礎学習」

本教材は、借用したeラーニングシステムを利用した。

・「国家試験準備学習」

国家試験問題の選択肢を基に正誤問題を構築した。

・「実力診断テスト」

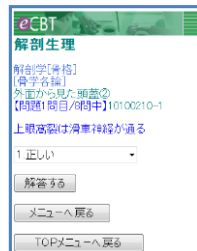
「解剖学・生理学基礎学習」と「国家試験準備学習」から問題を抽出し、実力診断テストを構築した。

・「管理サイト」

「国家試験準備学習」と「実力診断テスト」の学習状況を把握する目的で、管理サイトシステムを構築した。

TOPメニュー画面

問題画面(解剖学・生理学基礎学習) 問題画面(国家試験準備学習)



◆「チーム医療」ケーススタディ

医療現場で起こる具体的な事例を問題にした「ストーリー型ケーススタディ」を開発した。

特に3次からの臨床実習前に学ぶべき「チーム医療」をテーマとする学習内容で構成した。

ケーススタディの開発では、講義によって正解を教えるのではなく、受講者がケーススタディ問題を熟読し、必要に応じてその背景などを自ら調べ、自身で考えさせることで分析力や判断力を高めることができるよう配慮した。さらに、それを題材にした、グループ討議や発表を取り入れ、ものの見方や考え方を深める学習効果を企図した。

て正解した。
以下に、集合教育で実施した、個人学習からグループ学習までの演習の流れを示す。

・演習手順

- ①事例状況の認識、問題点の把握、解決の前提確認。
- ②問題解決の考え方、論点の整理。
- ③個人ごとに学習、解答を準備。
- ④解答を持ちよりグループ内で討議し、グループとしての解答を整理。
- ⑤各グループ発表。
- ⑥教員による解説。

ケーススタディ 出題構成

出題種	目的	症例
問題 A (和文)	チーム医療スタッフを知る①	交通事故による脊髄損傷
	チーム医療スタッフを知る②	脳卒中
問題 B (中文)	チーム医療カンファレンスを知る①	【失敗例】脳梗塞
	チーム医療カンファレンスを知る②	【成功例】交通事故による脊髄損傷
	チーム医療カンファレンスを知る③	【失敗例】脳梗塞
	チーム医療カンファレンスを知る④	【成功例】労災事故による右前腕切断
問題 C (英文)	チーム医療レポートを読む①	脳梗塞と糖尿病
	チーム医療レポートを読む②	筋萎縮性側索硬化症

(3)地域の人材ニーズの状況、事業の必要性等

宮城県を中心に以下の項目について調査を行った。

- (1) 被災地における医療復興の現状
- (2) コメディカル人材の需給状況
- (3) これからの地域医療連携体制下においてコメディカル人材に求められる専門性
- (4) チーム医療教育の取り組み事例

上記の調査から、以下のような地域の人材ニーズの状況、事業の必要性等が明らかになった。

宮城県では県内の医療関係者の総意に基づく形で「地域医療復興の方向性」を策定し、その中で「地域医療連携体制の構築・強化」が課題とされている。しかしながら、被災地では震災直後から医療従事者の人材不足の深刻化が生じ、現在も施設・人手などが十分に回復していない。

宮城県の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士は震災前から人材不足の傾向にあったが、平成23年度以降から専門職養成課程の卒業生が増加しつつある。

養成課程の卒業生が増えていくこのタイミングで、在校生や卒業して間もない初級人材に対して、これからの地域医療で求められる「チーム医療」を教育に取り入れることは、地域医療を下支えする人材の基盤強化を図るために必要である。

また、医療従事者に対して行なったアンケート調査から地域医療連携体制の強化には「コミュニケーション能力」、「チーム意識」、「協調性」、「医療全般の知識」、「専門分野の知識」等の資質が重要であり、「チーム医療」の教育には上記資質に関する内容を加えた教育プログラムの開発が必要であることがわかった。

(4)実証講座等の内容

実証講座は平成25年2月15日(金)から2月22日(金)の期間で実施した。

この期間のうち集合教育を実施したのは、2月15日、21日、22日の三日間である。この期間中集合教育の他に、eラーニングを用いた自己学習を実施した。

以下に実証講座実施の概要を報告する。

- 実施期間 平成25年2月15日(金)～2月22日(金)
- 対象者 学校法人滋慶文化学園 仙台医健専門学校 理学療法科 2年生
- 受講者数 36名
- 実施場所 仙台医健専門学校 第一校舎
- 集合教育の内容
 - ① 講演「チーム医療について」
 - ② チーム医療 ケーススタディ【問題1】
 - ③ チーム医療 ケーススタディ【問題2】
- eラーニングの内容
 - ① 解剖学・生理学基礎学習
 - ② 国家試験準備学習
- 検証方法
 - 受講者アンケート
 - 実力診断テスト(学習前・学習後)の比較

5. 事業実施体制

(1) 推進協議会の構成

組織名	代表者	役割等	都道府県
福岡医療専門学校	中島 弘喜(事務局長)	協議会代表、総括	福岡県
仙台医療専門学校	栗栖 昭五(事務局長)	実証受入れ	宮城県
仙台医療専門学校	石田 繁(教務部)	実証支援	宮城県
京都医療専門学校	竹本 雅信(事務局長)	実証支援	京都府
北海道ハイテクノロジー専門学校	鈴木 和人(事務局次長)	開発支援	北海道
東京医療専門学校	西田 茂男(学部長)	調査支援	東京都
医療法人真鶴会 小倉第一病院	中村 秀敏(副院長)	調査支援	福岡県
NPO福岡看護eラーニング研究会	隈本 寿一(幹事)	開発支援	福岡県
ナレッジネットワーク株式会社	森戸 裕一(代表取締役)	開発支援	福岡県
株式会社日本ドリコム仙台支社	米内 克典(支社長)	実証支援	宮城県
株式会社ストーリーミングジャパン	山畑 和巳(代表取締役)	開発支援	東京都
NPO教育支援システム研究機構	後藤 孝徳(事務局長)	実証支援	東京都

(2) 分科会の構成(設置は任意)

組織名	代表者	役割等	都道府県
福岡医療専門学校	中島 弘喜	開発分科会主査	福岡県
福岡医療専門学校	田中 俊光	開発分科会	福岡県
株式会社ストーリーミングジャパン	山畑 和巳	開発分科会	東京都
仙台医療専門学校	栗栖 昭五	実証講座分科会主査	宮城県
NPO教育支援システム研究機構	後藤 孝徳	実証講座分科会	東京都
福岡医療専門学校	赤池 保之	実証講座分科会	福岡県

(3) 事業実施協力専修学校・企業・団体等

組織名	代表者	役割等	都道府県
医療法人真鶴会 小倉第一病院	中村 定敏	助言	福岡県
NPO福岡看護eラーニング研究会	隈本 寿一	助言	福岡県
NPO教育支援システム研究機構	福田 益和	助言	東京都
株式会社日本ドリコム	森田 直樹	助言	東京都
株式会社ストーリーミングジャパン	伊藤 雄一	助言	東京都
ナレッジネットワーク株式会社	森戸 裕一	助言	福岡県

(4) 事業の推進体制(図示)

本事業の実施主体である推進協議会の下部組織として、開発分科会と実証講座分科会を設置した。それぞれは以下の役割を担う。

- 推進協議会 事業全体の企画、運営、管理を行い、事業の円滑な推進を行った。
- 開発分科会 コメディカル人材育成プログラムの開発を行った。
- 実証講座分科会 実証講座の企画、準備、運営、検証を行った。
- 事務局 事業全般の事務処理を行った。

また、事業の推進にあたっては推進協議会の構成機関を通じて地域医療機関との連携も図った。

